

# 第44回新潟県スポーツ少年団競技大会 第46回新潟県スポーツ少年団軟式野球大会開催要項

「この事業は公益財団法人新潟県スポーツ振興米山稔財団の助成を受けて実施しています」

「公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業」

1. 趣 旨 地域スポーツの振興に伴い、各スポーツ少年団がそれぞれ活発な活動を展開している。この状況に即し、スポーツを愛好する団員が一堂に集い、日頃鍛えた技を競いながらお互いの交流を深めるとともに、団員の能力開発を目指す場とする。
2. 主 催 公益財団法人新潟県スポーツ協会新潟県スポーツ少年団
3. 共 催 三条市スポーツ少年団（予定）
4. 後 援 新潟県 新潟日报社
5. 主 管 一般財団法人新潟県野球連盟
6. 期 日 令和6年6月22日（土）～23日（日）  
＜予備日：6月29日（土）～30日（日）＞
7. 会 場 三条パール金属スタジアム  
〒955-0803 三条市月岡4丁目36番1号 TEL：0256-32-8911
8. 参加資格
  - (1) 令和6年度スポーツ少年団登録団員及び指導者とする。  
（予選会参加までに市町村本部登録を完了しておくこと）
  - (2) スポーツ安全保険等に加入している者であること
  - (3) 高田宮賜杯全日本学童軟式野球新潟県大会に参加申し込みしている8チーム及び団員の出場は認めない。
9. チーム編成
  - (1) 代表指導者（監督）及び引率指導者、並びに指導者（コーチ）、団員は同一単位団の所属であること。
  - (2) 小学校4年生から6年生まで10名以上25名以内の団員及び代表指導者（監督）1名、引率指導者1名、指導者（コーチ）2名以内とする。  
なお、代表指導者及び引率指導者並びに指導者（コーチ）は令和6年度スポーツ少年団登録指導者（有資格者）であること。

## 10. 試合方法

(1) 下記地区割り表の参加団によるトーナメント戦とし、3位決定戦は行わない。

地域	該当市町村	参加団体
上越	上越市・柏崎市・糸魚川市・妙高市	1
中越A	燕市・加茂市・田上町・弥彦村	1
中越B	長岡市・三条市・見附市	2
中越C	小千谷市・十日町市・魚沼市・南魚沼市・津南町・湯沢町	1
下越	新発田市・五泉市・村上市・佐渡市・阿賀野市 胎内市・聖籠町・阿賀町・関川村	1
新潟	新潟市（中央・東・西・江南・北・秋葉・南・西蒲）	2

(2) 組み合わせ抽選に関しては、主催者の責任において行い、事前にチームへ周知する。

## 11. 競技規則

2024年度「公認野球規則」「全日本軟式野球連盟（全軟連）競技者必携」及び別に示す「第46回新潟県スポーツ少年団軟式野球交流大会競技規則及び方法」を適用する。

## 12. 使用球

ナガセケンコーJ号球を使用する。

## 13. 参加申込

(1) 必ず貴市町村スポーツ少年団本部を経由のうえ、下記申込先まで申し込む。

(2) 提出書類

① 参加申込書（別紙1）

※ スポーツ少年団登録システムの単位団名簿をダウンロードし、添付すること。

② 参加者名簿（別紙2）

③ 大会参加費納入書（別紙3）

④ プログラム掲載用名簿（Excel）

※ ①～④はデータで作成し、メールで送信すること。

データがそのままプログラムに掲載されるので、入力誤りがないよう留意すること。

**提出期限：令和6年6月11日（火）必着**

## 14. 参加料

(1) 単位団 20,000円

(2) 代表指導者（監督）・引率指導者・指導者（コーチ）1名 1,000円×人数とする。

（マネージャー・スコアラーは含まない）

## 15. 振込先

(1) 下記口座に令和6年6月18日（火）までに振り込むこと。

大光銀行 新潟駅南支店 普通口座 270835			
ゼンニホンナンシキヤキョウレンメイ	ニイガタケンシブ	シブチョウ	ヤマモト ノリアキ
全日本軟式野球連盟	新潟県支部	支部長	山本 智章

(2) 振込手数料は各団負担とする。

16. 日 程

第1日目（6月 日）		第2日目（6月 日）	
		準決勝第1試合	8：30～10：00
第1試合	8：30～10：00	準決勝第2試合	10：30～12：00
第2試合	10：30～12：00	--- 休憩 ---	1時間
第3試合	12：30～14：00	決 勝 戦	13：00～14：30
第4試合	14：30～16：00	閉 会 式	14：45～15：15

※雨天順延とする。

17. 北信越大会及び全国交流大会出場権

- (1) 県大会優勝チームは、令和6年7月6日（土）～7日（日）に福井県福井市「セーレン・ドリームスタジアム（福井県営野球場）」で開催される北信越大会の出場資格を得る。  
ただし、全国スポーツ少年団軟式野球交流大会の実施要項に準じて北信越大会から指導者の参加資格は「令和6年度にスポーツ少年団に理念を学んだ指導者として登録している者」とする。
- (2) 北信越大会優勝チームは、令和6年8月1日（木）～4日（日）に鳥取県で開催される全国スポーツ少年団軟式野球交流大会の出場資格を得る。

18. その他

- (1) 雨天の場合でも、開始時間を繰り下げて実施することがあるので、原則として天候にかかわらず集合すること。（参加者独自の判断で来ない場合は、棄権とする）
- (2) 令和6年6月22日（土）～23日（日）が雨天の場合、予備日に順延することとし、予備日も雨天の場合は抽選とする。
- (3) 往復途上及び大会中の疾病・傷害又は事故による医療費は参加者負担とし、主催者は一切責任を負わない。
- (4) 閉会式用にスポーツ少年団単位団旗を必ず持参すること。
- (5) 「第46回新潟県スポーツ少年団軟式野球交流大会競技規則及び方法」と「連絡事項」を熟読のうえ参加すること。
- (6) 取得した個人情報はプログラムの作成・大会結果掲載にかかわること（掲示板・ホームページ・大会報告書・報道関係への提供等）、その他大会運営及び必要な連絡等のみ使用する。大会関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真、映像が新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ・インターネット等によって配信されることがある。大会申し込みとして申込書を提出した時点で、個人情報及び肖像権の取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

19. 大会参加申し込み及び問い合わせ先

<p>一般社団法人新潟県野球連盟内          新潟県スポーツ少年団 軟式専門部 佐藤 宛          〒950-1112 新潟県新潟市西区金巻 746-1          黒埼地区総合体育館内          TEL：090-1935-4143          E-mail：nsbb.tohbu@smail.plala.or.jp</p>
--

第 44 回新潟県スポーツ少年団競技別交流大会  
第 46 回新潟県スポーツ少年団軟式野球交流大会競技規則及び方法

1. 大会特別競技規則

(1) 本大会を円滑にするため、各試合において下記のとおり制限を設ける。

試 合	イニング	制限時間	同点の場合	コールドゲーム
1 回戦 (4 試合)	6 回	試合開始 90 分経過後は、新しいイニングに入らない。	6 回終了又は制限時間経過後において同点の場合、投手の投球制限を遵守のうえ、タイブレークを 1 イニングのみ行う。 なお、勝敗が決しない場合は抽選とする。	①得点差によるコールドゲームは採用しない。  ②暗黒・降雨などで試合続行が不可能な場合は、5 回完了又は 90 分を経過した場合は試合成立としてコールドゲームを適用する。試合が成立しない場合は、特別継続試合の規定は採用せずノーゲームとし、後日再試合とする。
準決勝			6 回終了又は制限時間経過後において同点の場合、投手の投球制限を遵守のうえ、勝敗が決するまでタイブレークを行う。	
決 勝			6 回終了又は制限時間経過後において同点の場合、投手の投球制限を遵守のうえ、勝敗が決するまでタイブレークを行う。	

※タイブレーク方式

(2) 全軟連競技者必携 42 ページ「3 タイブレーク方式」による。

(3) 抽選方法は、全軟連競技者必携 208 ページ「抽選の要領」による。

※指名打者は抽選に参加しない。

(4) 投手は変化球を投げることを禁止する。投げた場合はペナルティを課す。

ペナルティは、全軟競技者必携 43 ページ「7.変化球に関する事項」による。

(5) 参加団員に対し、全員が各試合に出場できる機会を与えることが望ましい。

(6) 抗議は代表指導者（監督）か、当該プレーヤーとする。

(7) 本規定に定められていない事項が生じた場合、審査員競技のうえ大会審判長の権限により処理する。

(8) 投手の投球制限

- 全軟連競技者必携 44 ページ「8.学童部・少年部投球数制限について」による。

- なお、午前中に他の大会の試合（練習試合も含む）へ出場し、午後から本大会の試合へ出場する場合は、午前中の試合の公式球数集計表又は公式記録の控えを持参し大会本部へ提出する。その逆の場合は、本大会の公式球数集計表の控えを受け取ることとし、必ず投手の 1 日 70 球の制限を厳守すること。

- 本大会は 1 日に 2 試合を行う日程になっているため（準決勝と決勝）その当該日に他の大会等と日程が重なる場合は、1 日 3 試合以上となるため学童野球規程により本大会へ出場

を認めない場合があります。

## 2. 用具及び安全対策

- (1) 金属・複合バットは連盟公認のものに限る。
- (2) 打者、次打者、走者及びベースコーチは、両側イヤーフラップのあるヘルメットを着用すること。  
※ボールパーソン、バットパーソンもヘルメットを着用すること。
- (3) 投手は危険防止のため、必ずマスク（スロートガード付）・プロテクター・レガーズ・SG マークの付いた捕手用ヘルメット・ファールカップを装着すること。  
ただし、捕手用のマスクの SG 基準については本年度も適用を延長します。  
※控えの捕手とブルペン捕手も同様とする。
- (4) 上記の使用する用具はすべて全日本軟式野球連盟公認（JSBB）マーク及び SG マークが付いているもののみ使用できる。捕手用のマスクを除く。  
〔別紙参照「捕手（審判員含む）用マスクの SG 基準義務化に係る特別措置の終了について（通知）」「軟式野球用及びソフトボール用、捕手用マスク・プロテクター・レガースの商品統一化について（通知）」〕
- (5) マスコットバッドを次打者席に持ち込むことは差し支えないが、プレイの状況に応じて、適切な処置をすること。  
なお、競技場内での素振り用長尺バッド・パイプ及びリングの持ち込みを禁止する。
- (6) 金属製金具の付いたスパイクの使用を禁止する。
- (7) 同一チームの代表指導者（監督）、指導者（コーチ）、団員（選手）は、同色、同形、同意匠のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子を着用すること。

## 3. 競技運営に関し、次のことを規定する。

- (1) 背番号
  - ① 団 員 : 0 番～99 番までとし、主将は 10 番とする。
  - ② 代表指導者（監督）：30 番
  - ③ 指導者（コーチ）：28 番・29 番なお、必ずスポーツ少年団の団員章又は指導者章を着用すること。
- (2) 試合中のダッグアウト（ベンチ）の中に入れる人員は次のとおりとする。  
登録された、ユニフォームを着用した代表指導者（監督）1 名、指導者（コーチ）2 名以内及び団員 25 名以内と引率指導者 1 名（私服で良い）、マネージャー、スコアラー、各 1 名とする。  
※ マネージャー・スコアラーは団員以外とする。  
※ マネージャー・スコアラー・熱中症対策スタッフは私服とする。  
※ マネージャー・スコアラー・熱中症対策スタッフのベンチ入りは強制しない。ただし、ベンチ入りする場合は、大会本部の発行するネームフォルダーを携行してベンチ入りすること。
- (3) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を 1 塁側とする。ただし同一チームが 2 試合続く場合はこれにあらず。
- (4) ラフ・プレーを禁止する。特に足を高く上げてのスライディングは危険防止のために禁じることとし、現実にこれが妨害になったと審判員が認めた場合は走者を「アウト」にする。
- (5) 空タグを禁止する。現実に走者が進塁のとき野手が空タグをして走者の妨害となったと審判が認めたときは、オブストラクションを適用する。

- (6) 投手は初回（救援を含む）に限り、1分を限度として8球以内の準備投球ができる。次回からは4球以内とする。なお、天候等の状況によって変更する。
- (7) 投手のリストバンド（サポーター等）の使用を禁止する。  
なお、包帯やテーピングを巻く必要のある場合は、球審の承認を取らなければならない。
- (8) 試合前のシートノックは5分間とする。
- (9) シートノック時の補助員として指導者（コーチ）を認める。  
なお、シートノック時の補助員はヘルメットを着用すること。  
指導者（監督、コーチ）はユニフォームを着用しなければならない。  
指導者登録をしてもユニフォームを着用していない場合は、シートノックや補助員、その他すべてにおいてグラウンドに出ることはできない。
- (10) 守備が終わり、最後のボール保持者はマウンドにボールを置くこと。
- (11) 第1試合のチームは、試合開始予定時刻30分前までに、第2試合以降は、前の試合3回終了時まで大会本部で用意する打順表5部（必ずふりがなを付けること）を本部へ提出して登録メンバーの照合を受けること。その後、監督・主将・球審・本部役員の立ち合いのもと攻守の決定を行う。
- (12) 打順表は、大会本部が用意したものを使用する。
- (13) 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合を早める場合がある。
- (14) 試合開始時刻になっても会場に来ていないチームは原則として棄権と見なす。ただし、正当な理由があると主催者が判断した場合はこの限りでなく、場合によっては第1試合と第2試合の順序を変更するなどの処置をとることもある。
- (15) 小雨の場合でも参加チームの地域性を考慮し、球場が試合可能と判断される場合は試合を続行する。判断は主催者及び審判団の協議により決定する。
- (16) ボールパーソンは各チームから2名出すこと。（参加申込団員以外から出してもよい。ただし、ユニフォームを着用すること。）
- (17) 投手の投球数制限をカウントするための補助員（20歳以上）を各チーム2名出すこと。補助員は自チームの当該試合の開始予定時刻30分前までに大会本部に集合して担当内容等の詳細について打ち合せする。なお、本部役員の説明及び指示に従うこと。
- (18) チーム並びに応援団は、連盟の競技者規定に触れることのないように注意すること。特に、投手が投球モーションに入ったら、応援を止めなければならない。また、好ましくない応援や野次（鳴り物は禁止）に対しては、審判員がそのチームに対し注意をする。
- (19) ビデオカメラの撮影は自チームの当該試合に限定する。
- (20) 熱中症対策として、保護者2名以内がベンチに入ることを認める。
- (21) 練習は外野に限り行うことを認める（トスバッティングのみ認める）。
- (22) ベンチ内での電子機器類（携帯電話・パソコン等）の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。指示用のメガホンはベンチ内に限り1個の使用を認める。
- (23) 令和6年度より、ホームプレートは一般社会人（中学生以上）と同じサイズのものを使用する。（ストライクゾーンも一般社会人と同じ）  
バッタースボックス、キャッチャースボックス、ネクストバッタースボックス、コーチャースボックス、キャンバスバックは従来の学童用サイズとする。

第 44 回新潟県スポーツ少年団競技別交流大会  
第 46 回新潟県スポーツ少年団軟式野球交流大会 連絡事項

1. 到着申告等について

- (1) 大会初日は試合時刻に合わせて会場入りし本部に到着を報告する。第 1 試合の両チームは、ベンチ内へ荷物を置いてもいいが、各チームの責任で貴重品及び荷物の管理を行うこと。  
なお、スタンドには荷物を置いてもいい。
- (2) 主催者の指示に基づき、外野でのアップを行ってもよい。  
なお、グラウンドの状況によっては、許可しない場合がある。また、指示があった場合は速やかに中止すること。

2. 代表者会議について

- (1) 代表者会議は 6 月 15 日 エコスタジアム 第一会議室で午前 10 時 30 分より行う。各チームの代表指導者（監督）、主将の計 2 名が試合用ユニフォームを着用し出席すること。  
なお、会議には 2024 年「野球規則」「競技者必携」「新潟メソッド」を必ず持参すること。
- (2) この会議で説明又は決められた事項は、チーム全員及び応援関係者に必ず周知徹底させること。
- (3) その他、大会運営に関する必要事項等大会特別競技規則の説明を行う。

3. 登録団員等の確認について

- (1) 参加申込書に記載してある団員の確認を行い、記載していない団員は抹消する。参加申し込み後は原則として団員の追加並びに変更は認めない。
- (2) 参加申込書に記載してある背番号の変更は認めない。
- (3) 代表指導者（監督）及び指導者（コーチ）の交代の確認をする。

4. 閉会式について

- (1) 閉会式には参加申込書に記載してある団員以外は参加できない。  
なお、上記団員以外のベンチ入りも認めない。
- (2) 団旗・プラカードは各チームで持参すること。
- (3) 整列時は先頭から旗手・主将・背の低い者の順に 2 列に並ぶこと。
- (4) 優勝チームの代表指導者（監督）は北信越大会についての説明を行うので、閉会式後、本部室に来ること。
- (5) ベンチ内、各チーム応援席の整理整頓及びゴミの持ち帰り処理を徹底すること。

5. その他

- (1) 攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ることができるが、プレイがかかる前に速やかにベンチへ入ること。ネクストバッタースボックス内の選手以外の者が投手の準備投球に合わせて素振りをするを禁止する。
- (2) 投手の 12 秒及び 20 秒ルール（ピッチクロック）は、タイムを宣告してボールデッドとする。「タイム」の宣告にもかかわらず投手が投球した以降のプレイは無効とする。

※投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入って投手に面したときに始まり、投手が投球動作を開始したときに終わる。

- (3) 指名打者ルールを使用することができる。但し、二刀流選手を採用しない。(大谷ルール)
- (4) 試合会場で軟式野球ボール以外のボール等を使用した練習を禁止する。
- (5) 4年生以下の投手のバッテリー間及び塁間の規定は採用しない。
- (6) 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリーで軽いキャッチボールは認める。ブルペンの使用は従来通り。ストレッチ、ランニング等は攻守交代の間のみ使用できる。
- (7) スポーツマンシップの徹底。  
「野球にヤジは必要ありません。楽しい野球をするために「尊重・勇気・覚悟」をもって取り組みましょう」
- (8) 大会運営、進行については主催者の指示に従うこと。